

普及活動情勢報告（令和5年12月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

優良種子の確保のために ～水稻採種ほの生産物審査～



発芽状況を丹念に観察する
普及職員

10月下旬から12月中旬にかけて普及所は、9月に行った水稻採種ほ審査で合格したほ場の種子の生産物審査を行いました。

この審査は、健全かどうかを判断するための審査で、50℃で5日間温風処理させて休眠打破させた種子と、しない種子をそれぞれ200粒ずつ、25℃の温度下で3、5、7、10、14日後の発芽状況を調査するものです。

調査の結果、全員が発芽率90%を超え合格し、この後農産物検査を経て合格することで種子として出荷ができます。

今後も普及所は、優良種子の生産に向け、関係機関とともに栽培管理指導等を行い、支援をしていきます。

嶺北で栽培される花々を見て触れて親しもう！

～生産者が大豊学園花育出前授業を開催～



生産者の出前授業を
サポートする普及指導員

11月24日、JA高知県れいほく花卉部会の部会員4名が参加し、大豊学園3年生9名を対象に花育出前授業を開催しました。授業では、部会員が嶺北地域の花き生産の特徴についてクイズを交えながら紹介した後に、嶺北産の花を使ったフラワーアレンジメントを行いました。普及所は、開催に向けた調整や当日の進行補助を務めました。

児童らは「嶺北にしかない貴重なユリ品種があることを初めて知った！」「アレンジメントは玄関に飾って家族に見せたい！」等、花に触れる機会を満喫したようでした。

今後も普及所は、地域の花育や花の消費拡大に向けた活動を支援していきます。

有機農業の販売について話し合う ～嶺北地区有機農業研修会の開催～



研修会の様子

11月27日、普及所は有機農業における販路拡大をテーマに、大豊町農工センターにて嶺北地区有機農業研修会を開催し、農家及び研修生6名が参加しました。

県の環境農業推進課と農産物マーケティング戦略課が行ったアンケート結果等を聞いた後、販売において各農家を実感している課題について話し合いました。「量販店から『無農薬』表示は客を混乱させると表示を断られたため、農家名だけを表示して販売している」などの実態や「給食に納品している」「持続的な農業や地球環境のために有機農業をしている」などの思いや活動状況が共有されました。

今後も普及所は、嶺北地域の特色ある農業形態の一つとして有機栽培を位置づけ、生産者の情報交換の場づくり等を支援していきます。

IPM 技術のさらなる向上を目指して ～IPM 研究会～



実証試験の内容を説明する
普及指導員

12月1日、JA高知県れいほく園芸部はIPM研究会を開催し、部会員11名が参加しました。

JAからは今年の活動状況の報告および次年度の活動計画の提案がありました。普及所からは、スワルスキーカブリダニを活用した実証試験の結果や天敵放飼のポイントなどの情報提供を行いました。

参加者からは「スワルスキーの放飼時期はいつがよいか？」などたくさんの質問が出され、活発な意見交換が行われました。

今後も普及所は、嶺北地域のIPM技術の発展のためにJAと連携して研究会活動を支援していきます。

関西圏等の市場で産地の活動紹介 ～JAれいほく園芸部市場視察～



市場での情報収集！

12月4日、5日、JA高知県れいほく園芸部は名古屋青果、大阪中央青果、神果神戸青果へ視察に行きました。

当日は市場の担当者に今年度の生産状況を報告し、来年度に向けた意見交換を行いました。普及所は、米ナスや甘とう等の嶺北で生産する品目について、今後の需要の見通しに関する質問と情報収集を行いました。

生産者からは「産地と市場が密に連絡を取り合うことは重要だ」「今後も販売促進を続けていく」の声が聞かれました。

今後も普及所は、嶺北産の野菜の消費拡大に向けて、JAと連携して販売促進の取組を支援していきます。

ハウレンソウの良品生産に向けて ～JAハウレンソウ部会反省会の開催～



反省会の様子

12月6日、大川村山村開発センターでJA高知県れいほく支所ハウレンソウ部会反省会が開催され、生産者3名が参加し、普及所はヨトウ類の防除と農業版BCPについて説明しました。

生産者からは「今年は、7、8月のハスモンヨトウの被害が多かった」「れいほく八菜規準で農薬の総使用回数が3回以内と決まっているので、1回の散布で複数の害虫に効果のある薬剤はないか」などの質問がありました。

嶺北地区のハウレンソウ栽培は温暖化により夏秋栽培が難しくなっており、果菜類休閑期にハウスを有効利用する、端境期作付の位置づけとなってきています。

普及所は、今後も作型に応じたハウレンソウ部会の栽培管理技術の向上を支援していきます。